

授業科目名 <英訳>	西洋史学(特殊講義) European History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 小関 隆					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	サッチャリズム序説										
【授業の概要・目的】											
第二次世界大戦以降、保守党か労働党かを問わず、歴代の政権が共有した「コンセンサスの政治」に終止符を打ち、ネオ・リベラリズムを基調とする政策を精力的に遂行したサッチャー政権の時代（1979～1990年）は、イギリス現代史上の決定的な転換期であった。サッチャーが退場して四半世紀以上が経過したが、依然としてイギリスはサッチャリズムが定めた方向性から脱却できていない。今年度の授業では、サッチャー政権の主要な政策を検討しながら、今も残るサッチャリズムの刻印を検証する。											
【到達目標】											
サッチャリズムの今日的な意味を、1970年代以降の世界の転換を視野に収めつつ理解する能力を身につけること。											
【授業計画と内容】											
以下に掲げたテーマの各々につき、1～2回程度の授業を充てる予定である。 (1) マーガレット・サッチャー（1回） (2) ニュー・ライト（1回） (3) マネタリズム（1回） (4) フォークランド戦争（2回） (5) 労働組合との闘争（2回） (6) 核抑止力と反核運動（1回） (7) 福祉国家の解体（2回） (8) 民営化（2回） (9) ヨーロッパ統合（2回） (10) 地方自治体と人頭税（1回）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
学期末のレポートによる評価を基本とする。											
【教科書】											
使用しない プリントを配布する。											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
----- 西洋史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西洋史学(特殊講義)(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

以下の文献を参照することが望ましい。

オーウェン・ジョーンズ（依田卓巳訳）『チャヴ：弱者を敵視する社会』海と月社、2017年。
セリーナ・トッド（近藤康裕訳）『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。
長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。

（その他（オフィスアワー等））

前期の受講を前提とはしない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。